

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

2023年4月15日

第26号

すくらんぶる

活動情報

- 4/25 理事会
- 4/28 劇場代表者会
- 5/16 理事会
- 5/22 祭典事務局会議
- 6/6 祭典事前交流会
- 6/10 大沢愛さん講演
通常総会
- 6/17 乳幼児に関わる
大人研修ワークショップ
- 7/6～8/1 第28回県祭典

祭典推進事業「分かち合う文化の力で 子どもにやさしいまちづくりを！」

講演 北島 尚志さん 2023. 3. 24(金) たらみ図書館海のホール

来場者 49名 /アーカイブ視聴 73名 (合計122名)

舞台公演の取り組みを通して地域のつながりをつくり、子どもが豊かに育つまちづくりをすすめている長崎県子ども舞台芸術祭典。3年以上にも及ぶコロナ禍を経て第28回目を迎える今年、“子どもにやさしいまちとは？”“子どもにとって豊かな文化環境とは？”について共に考え合いたいと、あそび表現活動を通して人やまちをエンパワメントする達人、北さんこと、あそび環境 Museum アフタフ・バーバンの北島尚志さんの講演会を企画した。北さんは現在、子どもの権利条約31条委員会の活動を中心に、聖心女子大学非常勤講師、まちを舞台に地域の大人たちを巻き込んだあそびの実践を全国各地で続けている。当団体の方針にも掲げている“子どもの権利条約31条”とは、「休息・余暇・遊び、文化的・芸術的生活への参加」の権利。日本は、この条約を批准してから30年近く経つが、国連子どもの権利委員会から「過度の競争主義が子どもの人格形成をはばんでいる」などの内容で二度も勧告を受けている。さらにコロナ禍で人との関わりが閉ざされたこの3年間で、子どもの脳は虐待を受けた脳と同じく、交感神経が常に興奮状態にあるというショッキングな報告もあった。

子どもたちを取りまく環境を考える時、実際子どもたちはどこで育つのかについても整理された。評価やプレッシャーの中で頑張り、学ぶ場「学校」。ホッとしてわがままが言え、評価がなく、頑張らなくていい「家庭」。好きなことを自分で選んでできる、夢中であそべる「地域」。・・・以前はそうだったが、現在はどうか。子どもたちは、どこにいても頑張っていないか。わがままの語源は“我が儘(ま)”。子どもたちは、どこで本来の自分でいられるのか。権利条約31条とか離れた子どもたちの環境に息苦しさを感じてしまう。子どもにとってあそびの世界が大切なのは、できなくても、わからなくても笑える世界だから。北さんがいうあそびの定義は、「関わりの中で生成し、やり取りの中で選択・合意する」ということ。そうしようと決めるのはその場にいる私たちだ。ある日の活動の中で子どもがつぶやいた「北さんはジャッジしないね」という言葉に、子どもたちがいかに日常の中で評価に囲まれているか知らされた、という北さんの言葉は重かった。

専門家は共通して言っている「勝ち負けではない価値観、競争の外に子どもたちを連れ出そう！」と。子どもの時間は、無駄で、意味のない、余計なこと、大人にはそう見える。しかし、そんな時間の中で自分の「言いたい! 決めたい! やってみたい!」を何百回も繰り返しながら“私”という主体が形成されていく。コロナ禍真ただ中、第25回祭典をやむをえず中止した私たちだったが、1年休んだことで地域の方も私たちもあらためて祭典の大切さを痛感し、まだまだ困難な状況は続いていたが翌年には再開することを決めた。北さんたちも感染について学び、コロナ禍のあそび方を提案するなど、新たなあそびも生み出し広げていった。北さんは力強く言った、「31条を不要不急だと思ったことは一度もない」と。本当にそうだ。3000回を超える忍者あそびで出会ったたくさんの子どもの言葉、そこに寄り添う大人たち。子どもの姿を見て心が動き、その場で響け者になった大人たち。その実践から言えること、「大丈夫! 面白がってくれる大人は地域にたくさんいるよ!」。北さんは最後に私たちにエールを送ってくれた。「身近な場所に、身近な人といつもと違う風が吹く。面白くするのは、誰かではなく私たち。まちで子どもが育つというのなら、やさしいまちで子どもが育つというのなら、心の奥にしっかりこのことをおさえておいてほしい。子ども時代は、“私”を形成する大事なプロセス、それが崩れたら“私”にはなれない。」・・・問われているのは、私たち大人だ。私たちが目指す31条の実現の一つは、地域の方々と共に県内各地で響く子どもの笑い声、笑顔が集まる県祭典で体現しよう! と強く思えた講演だった。





舞台コーディネイト事業報告



人形劇団京芸「へんてこげきじょう」期間2023年2/4(土)~2/15(水) 11公演

NPO法人長崎県子ども劇場連絡会は、子どもの権利条約31条（休息、余暇、遊び、文化的・芸術的生活への参加）の実現を目指し活動しています。文化芸術基本法にも「文化芸術の享受と創造は、人は生まれながらにして有する権利です」とあります。子どもの成長・発達のためには、豊かな文化芸術に心を躍らせる体験は欠かせません。生の舞台芸術に触れることは、感性や想像力を培う貴重な体験の場と考えます。

その一環として、舞台公演のコーディネイト事業を取り組んでいます。幼稚園・保育園・学童保育・子育て支援等で親子や仲間と一緒に、舞台芸術に出会う機会の提案とサポートをしています。今年度は、人形劇団京芸の「へんてこげきじょう」を11公演実施することができました。幼稚園・保育園・学童保育の他に、祭典を取り組んでいる実行委員会の公演もありました。取り組んだところの感想から、人形劇の世界にたっぷり惹き込まれている様子が伝わってきました。人間の脳には「ミラーニューロン」という神経細胞があると言われています。他者が何らかの動作をしているのを見た際に、自分が同じ動作をした時に反応するのと同じ脳の部位が反応していることが実験で観察されました。人間の脳は、他者の動作をまるで自分がしているかのように認識しているということです。また、動作のみならず、痛みや温かみといった「感覚」や、嬉しい悲しいといった「感情」も、まるで自分のことのように感じるのだそうです。「共感する脳」とも言われることから、目の前で繰り広げられる舞台を観ている子どもたちは、まさにその体験をしているのだと思います。楽しい時には体を揺すって大笑いし、切ない場面ではしゅっと静かになる姿からも伺い知れます。そういう体験を積み重ねて、子どもたちは「私」を形成していくのだと思います。(舞台コーディネイト事業担当理事 尾崎)

2/4(土)	はさみわくわくDokiDokiの会
5(日)	佐世保子ども劇場
6(月)	ありあけ保育園(島原市)
7(火)	桜花保育園(島原市)
8(水)	稲佐保育園(長崎市)
10(金)	おもやい保育園(長崎市)
11(土)	ながさき子ども劇場
12(日)	諫早子ども劇場
13(月)	学童保育北小クラブ(諫早市)
14(火)	ふくた保育園(諫早市)
15(水)	小野保育園(諫早市)



『集中すること』

小野保育園園長 廣川健一郎

何かに集中してわれを忘れる。夢中でものを食べ、ああおいしい、と息を吐く。そのときのよろこび。ときを忘れて本を読む。読み終えて息を吐く。ああおもしろかった。湯船につかる。ふうっと息を吐く。息を吸い息を吐く。集中と解放。いきいきと生きる。いきいきと息をする。息を吸い息を吐く。いきいきと生きるとは、きっと、いきいきと息をすること。(息をこらし、表情をかくすマスク。なんとかならないものか。)

この2月に尾崎さんのお世話で、人形劇を観た。子どもたちのなんとよろこんだことか。いきいきとはずむ声。かがやく瞳。終わって、尾崎さんが言うには、こどもたちが(先生も!)こんなに一生懸命観てくれるところはないです。笑うところは笑うし、話の筋をちゃんとおさえて反応するし、子どもたちの集中がすごい。とてもうれしい言葉。集中があつて解放があり、解放はよろこび。われを忘れるほどに集中ができれば、きっとよろこびもまた大きい、のだけれど、その集中する力は、いつどこで培われるのだろう。寝不足は集中を妨げるだろう。不安もそう。欲求不満もそう。空腹もそう。

不安や緊張をかかえては集中できない。おしゃくしゃしていても集中できない。ならば結局、必要なものは安心。夜の眠り。十分な昼間のあそび。食事。安心して食う、寝る、遊ぶが保障されているということか。

子どもたちは、いきいきと息をしているか。食う寝る遊ぶと安心がちゃんと保障されているか。なんとか保障されているか。どうないこうない保障されているか。何を大切にするのか。一日いちにちの生活の中で、忘れてならないものは何か。あの日、尾崎さんに言葉をいただいて考えています。

最終公演の保育園から言葉をいただきました。



ながさき・佐世保・諫早子ども劇場共同企画 第5回県高校生青年交流合宿

とき;2023年2月25日(土)10:00~26日16:00 場所;国立諫早青少年自然の家
 テーマ「3劇場で協力して、全力全開でみんなが笑顔になれるような交流会にしよう！」

ながさき・佐世保・諫早の子ども劇場の高校生と青年が交流し、単位劇場の活動の力に繋がることを目標に毎年開催。コロナ禍の中、一昨年は宿泊を断念し、たっぷり1日を遊びこむ形をとり、昨年は様々な議論の末、感染対策に工夫を凝らして宿泊の形をとった。第5回となる今年は、感染状況の落ち着きも見え、高校生の宿泊し語り合いたいという声の元に、合宿の形で計画を進めることになった。

実行委員会準備会の段階で、昨年の取り組みで課題として出された「実行委員会の形」「連絡体制」「会場下見」などについて、各劇場の高校生・青年・大人がそれぞれの思いや考えを出し合い、各単位劇場代表の青年とは別に実行委員長という立場の青年をたて、会議を進行していくことにした。その結果、Zoomオンライン会議ではあったが、単位の高校生・青年が伸び伸びと意見を出しやすいものになった。連絡体制も、実行委員長から単位の青年代表に連絡し、各劇場の高校生と青年に伝えるという形をとることで単位の話合いも充実していたようだ。下見も3劇場一緒に行くことができ、自然の家のスタッフとの打ち合わせから共有し、互いの企画にも思いをはせることができ、当日の楽しみと連帯感を膨らませることにつながっていった。当日は、各劇場が担当した企画の中で初参加の高校生の表情も柔らかくなっていき、巨大ジェンガやキンボールという自然の家ならではのあそびで、協力して成し遂げていくことや全力で集中、全力で走りこみあちこちで笑いが弾けていた。夜のキャンプファイヤーを囲んでの語り企画の中で、高校生が夢を語り、互いにその子の未来を想像した。そして、その時にまた会いたいという素敵な感情が仲間に広がっていく時間と空間が生み出されていった。2日目の企画は、「あそびを創り出す」というもの。午前2時間、午後2時間で県高校生青年合宿ならではのあそびを創って実際に遊ぶところまでもっていく企画。意見を言いやすくなっている仲間同士だからそのおもしろい「あそび」を創り出せていた。「あそび」には、前日の語り企画の延長のようなネーミングがつけられ、それぞれの劇場が担当した企画ではあるが、全てが何か繋がっているものになっていったことは、大きな成果だった。

総じて、昨年からの課題解決から、会議を丁寧に積み重ね、掲げていたテーマが達成できた合宿だった。振り返り実行委員会では、参加した高校生から「もっとひとりひとりと語り合いたかった」「1泊ではなく2泊したい」と、次回このメンバーがどんな面白いことを創り出すのか楽しみになる感想が出された。また、感想を出し合いながら、今度いつ会えるかなという話になり、3月に県連が主催する北島尚志氏の講演会で会おうという動きや、9月の高学年例会をみんなで佐賀県まで観に行こうという動きに広がっていった。

単位劇場の高校生が県という場で交流する時間は、自分の意見を受けとめてくれる仲間の広がりや、新たな見方や考え方に会える時間であり、おもしろいことを生み出せる自分たちの力を再確認できる大切な場になっている。彼ら自身が丁寧に積み重ねていける場を保障していくことは大人の責任だと思った。



第28回長崎県子ども舞台芸術祭典の作品 2023年7月6日~8月1日

モシモランド

ぼくピンチなんです！

サクラがいく！

ざんさんのおはなし劇場



子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

作品名(団体名)	月日(曜)	開演時間	会場	主催
11ぴきのねこ (人形劇団クラルテ)	5月11日(木)	19:00	諫早文化会館・中ホール	諫早子ども劇場
こまのたけちゃんのおそぶあそび! (こまのたけちゃん)	5月13日(土)	15:00	メルカつきまちホール	ながさき子ども劇場
	5月14日(日)	15:00	佐世保市民文化ホール	佐世保子ども劇場
モシモランド (劇団風の子九州)	7月22日(土)	13:30	壱岐の島ホール(中ホール)	壱岐子ども劇場

**NPO 法人
長崎県子ども劇場連絡会**

〒850-0057

長崎市大黒町 4-26

北村第一ビル 302 号室

TEL: 095-825-0533

FAX: 095-825-6151

E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

県内子ども劇場

ながさき子ども劇場

TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場

TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場

TEL: 0957-23-5689

吉岐子ども劇場

TEL: 0920-44-5010

Web サイト

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

発行

NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会

乳幼児部会主催

**子育ての知恵袋
～わらべうたを学ぼう～**

昔からそれぞれの地域で受け継がれている
わらべうたは、なぜ乳幼児に良いのでしょうか。

日頃の子育てや保育の現場で わらべうたを
楽しむために一緒に学びませんか？



表現教育家・パフォーマー
大沢 愛さん

2023年6月17日(土)

14:00~15:30

◆アルカス SASEBO

第2リハーサル室

◆参加費:2,000 円

◆託児:ひとり 500 円

事前申し込みが必要です。

×切 5/31(水)



6/10(土)	大沢さん講演(総会)	長崎県子ども劇場連絡会
11(日)	「かぜのうた」公演	諫早子ども劇場
12(月)	「かぜのうた」公演	有家たちばなこども園
13(火)	「かぜのうた」公演	桜花保育園(島原市)
14(水)	「かぜのうた」公演	ありあけ幼稚園(島原市)
15(木)	わらべうた研修ワーク	島原市子育て支援室
17(土)	「かぜのうた」公演	佐世保子ども劇場
午後	大人研修ワーク	県連・乳幼児部会
18(日)	「かぜのうた」公演	ながさき子ども劇場

★編集後記★

アフタフ・バーバンの北島さんと出会ってもう20年以上になる。

子どもの権利条約31条をどう保障していくのか、地域の中でどう体现していくのか、とてつもなく大きな問題だと思っていた。が、今回の講演の中でどんな小さな集まりでも子どもたちの「言いたい！ 決めたい！ やってみたい！」をつらぬいてほしいと言われた。そのことが31条そのもの、子ども時間を守るからだからと。2年前北さんの“子どもの声をひろうファンリテーター養成講座”以来、子どもたちの声を大事にする活動は、さらに子ども劇場の活動の中で体现されている。子どものつぶやきには元気と勇気をもらえる。北さんはずっと子どもたちがあそぶための交渉人をやってきたと言った。交渉がうまくいっていかなくてもそこには、子どもたちとの間に信頼がうまれる。

文化は、すぐに答えが出ないけれど、出会いの奇跡は予想外で偶然起きるもの、言葉で説明できないほどの魂が震える経験は、人の人生を変えることもある。私たちは、間違いなくそんな出会いをつくっている。文化って共有の価値観、先代が培ってきた財産。今、私たちが地道にやっていることは未来の子どもたちの文化につながっている。大人が動かなければ、声をかけあって、このまちをつくる当事者として。(T)

団体概要

子どもの豊かな成長と地域の子ども文化芸術振興に寄与することを目的に 2002 年に NPO 法人として活動を開始しました。長崎県内にある 4 つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。長崎県子ども舞台芸術祭典や舞台公演のコーディネート、講演会や学習会などの事業を行っています。

子どもに夢を！ たくましく豊かな創造性を！

私たちは子どもの文化を応援します。

社会福祉法人 **小野保育園**

諫早市小野町 676-2
TEL0957-23-0120

ダイハツチバナ

有限会社 **林田車体工業**
〒854-0126 諫早市松里町 288
TEL 0957-23-5318 FAX 0957-24-1378



立石産婦人科医院

諫早市栄町 7-6
TEL0957-88-0292



古豊歯科医院

長崎市小峰町 3-16
☎ 095-843-4165

ホテル **ウィング・ポート長崎**

医療法人 **マツオ内科クリニック**

〒854-0072 諫早市永昌町43-6

TEL 0957-25-2225
FAX 0957-25-2220